

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番	福山市立宜山小学校
	最終更新日	2026年(令和8年)4月1日

I 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

<p>前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○登下校時に、児童・生徒が気持ちよい挨拶をする姿が見られるようになっている。 ○各校で課題を明確にして取り組んでいる。授業や行事を通して、児童・生徒が一生懸命学びを深めていると感じる。 ○学校・保護者・地域が互いに連携・協力を深め、児童・生徒を育てていくことが重要である。 ○各校で、今後も、目標をもって思い切って取り組んでいってほしい。 	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力の定着に向けての取組の結果、「できた」「わかった」と実感できる児童・生徒が増えている。引き続き基礎学力定着に向けて取り組む。 ○中学校区で、家庭学習の習慣・スマホ・メディアとの適切なかわり方について取り組んでいる。まだ十分な成果が出ていないので、家庭との連携を深め、取組を継続する。 ○行事やボランティア活動を通して、「全力で頑張ったやり切った」と感じることができた児童・生徒が増えており、自己有用感・自己肯定感が高まっている。 	<p>育成する資質・能力</p> <p>思考力・判断力 コミュニケーション能力 自己理解・自信</p>
		<p>めざすこども像(義務教育修了時の姿)</p> <p>駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒</p>
		<p>中学校区として統一した取組等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材研究を深め、子ども主体の授業づくりを進めるとともに、学力の定着・向上を図る。 ○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる。 ○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。

III 自校

学校教育目標
自ら考え学び 社会に貢献できる子どもの育成

現状
<p><児童生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことに楽しさを感じ、主体的に取り組む児童が増えてきたが、基礎基本の学力の定着に課題が見られる。 ・相手や場の状況を考えて自分から行動したり、学んだことを他の場で生かしたりすることに課題がある。 ・異学年間のつながりが強く、あこがれの上級生から学ぶことができている。 ・互いのがんばりや友達の良さに目を向けて認めることができている。 ・運動委員会による全校遊びを奨励し、運動が楽しいと感じている児童が多いが、新体力テストの結果につながっていない。 ・地域に支えられているという意識が高く、郷土愛が醸成されている。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童同士が反応する意識が出てきて、お互いの考えから学び合おうとする姿が見られるようになってきた。 ・何を身につけさせたいのか、ゴールを明確にした単元計画を立てることが十分ではない。クラス全員で考え、児童の思考を深めるための「問い」を工夫して授業改善をしていく必要がある。

育成する資質・能力	思考力・判断力	コミュニケーション能力	自己理解・自信	
めざすこども像	低学年	意図をもって、選んだり行動したりすることができる。	自分と友達によさに気づき、考えを伝え合うことができる。	わかったこと、できたこと、できるようになったことなど、自分自身を振り返ることができる。
	中学年	よりよい考えや解決のために、意図をもって選択したり選択し直したりすることができる。	自分と友達の相違点に気づき、認め合いながら、自分の考えを分かりやすく伝えることができる。	自分のよさや身に付いた力、課題などに気づき、生活に生かしたり改善したりすることができる。
	高学年	自己決定と自己調整を繰り返しながら、よりよい解決や生き方を見付け、生活に生かすことができる。	多様な他者の考えや個性を受け入れ、自分の考えを論理的に伝えることができる。	自分や他者のよさを認め合い、「なりたい自分」に向けて、客観的に考えて取り組むことができる。
研究	テーマ	こどもの学びの過程を大切にし、主体的に考え合うこどもの育成 ～こども自らが「問い」をもち、学び合う姿を目指して～		
	内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・児童のつまずきを基にした単元計画の作成 ・こども自らが「問い」をもつ授業づくり ・学びの方略や言語活動等を自分で選択・決定する場の設定 		
めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が課題について疑問や課題意識をもち、友達と話し合いたいという意欲をもっている。 ○課題に対してクラス全員で考え、反応し合いながら学び合い、深い学びへとつながっていく。 ○自己の学びを振り返り、自己調整しながら学習を積み重ねていく。 			

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	力を入 れ評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力を入 れ評価	達成 評価	総合 評価
4	自ら考え学ぶ 児童(主体 性)の育成	★	継続	○主体的に学 ぶ意欲・態度 の向上	・教材研究を深め、考えさ せたい「問い」を明確に した単元計画を立てる。	・単元テストの知識・技 能の観点到達率国語科 75%、算数科78%								
				○自ら思考し、 表現する力 の向上	・自分の考えをもち、学び 合う場を取り入れる。	・「わかった・できた」と 感じている児童 85% 以上								
				○確かな学力 の定着	・帯タイムを活用して、学 習の基礎の定着を図る。	・「授業が楽しい」と感じ ている児童 85%以上								
			継続	○自他を認め、 相手を思い やる心の育 成	・「にっこり! たまて箱」に よる学び合いを行う。 ・代表委員会を実施し、児 童会目標や学校行事に 関わる学級や委員会の 取組を行い、交流・振り 返りを行う。	・友達のよさを見つけ、 認めることができた児 童の割合85%以上 ・「学級や委員会では児童 会目標を意識した」 85%以上								
			継続	○運動に親し み、進んで体 力づくりに 取り組む態 度の育成	・運動委員会による全校遊 びの活動や、学級レクの 活動を行う。 ・主運動につながる運動を 系統性や実態を考慮し、 効果的に取り入れた授 業づくりを行う。	・運動が楽しいと感じて いる児童の割合90% 以上 ・取組を実施した教員の 割合100%								
	保護者・地域 とつながり、 信頼される学 校		継続	○地域の人材 と協働した 学校づくり (SDGs 11)	・総合的な学習の時間や生 活科などで、地域社会に 児童が関わる活動をよ り探究的なものになる ように単元づくりを行 う。	・地域のよさを感じてい る児童の割合90%以 上 ・「地域のことを学んだ り、地域の人材を生か した活動をしたりする ことが楽しい」と感じ る児童の割合85%以 上								
2	教職員が元気 に笑顔で勤務 できる環境の 充実		継続	○教職員が子 ども達とと もに自ら挑 戦し、学び続 ける環境づ くり	・教材研究日を月2回設定 し、授業づくりに充てる 時間を確保する。 ・授業を互いに見合える環 境づくりを行い、授業改 善を進める。	・福山アンケート「こどもが 自ら学ぶ授業づくりに充 てる時間がある」肯定的 評価85%以上。 ・福山アンケート「仕事にや りがいを感じている」肯 定的評価94%以上。								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。